

社会への発信

サイエンスアゴラ 2016 の「参加者特別賞」を慶應技術士会が受賞

The Institution of Professional Engineers, Keio Univ. received The Science Agora Special Award

1 経緯

慶應技術士会は 2009 年に設立し、他校の技術士会同様、母校との連携を中心とした活動をして来たが、広く対外的な社会貢献活動を行う機運が高まり、2013 年日本科学技術振興機構（JST）が主催するサイエンスアゴラに初出展して、来場者に科学の楽しさ・面白さを伝える試みをした。この時点では幹事たちの中にもサイエンスアゴラはほとんど知られておらず、発起人 2 人が準備した試験的な出展だったが、幾何学を利用した「マジック図形」と偏光を利用した「偏光アート」の工作に 105 人の来場者が参加したので（写真 1）、社会貢献の目的を十分達成できることを確信した。



写真 1 2013 年の会場風景

2014 年は技術士全国大会（福岡）と日が重なり注力できなかったが、2015 年は慶應技術士会の公式の活動として数名の幹事が本格的に準備し、合わせ鏡の原理を使った「宇宙の奥を覗く」という工作を出展した結果（写真 2）、171 名の参加者があったので、幹事たちの達成感も高まり、会の年次活動の柱の一つとして位置付けるに至った。

2 サイエンスアゴラ 2016

サイエンスアゴラは出展募集に応募しても選考で採択されないと出展ができないので、応募に当たっては「お題」との整合性ある内容・人目を引く表題など、念入りな準備が必要である。



写真 2 2015 年の会場風景

2016 年は応募日限の約 3 カ月前から幹事他有志が検討会を重ね、工作テーマ 5 案を持ち寄った結果、2 テーマに絞り込み実施することにした。一つは「リニア新幹線浮上のしくみ」でアラゴの円盤、もう一つは「LED アートのしくみ」で LED 点灯基本回路の工作である。アラゴの円盤には 188 名、LED 回路には 196 名の参加があった。

出展には表彰制度があり、主催者の JST 賞や協賛者提供の賞があるが、出展者と来場者の投票による「参加者特別賞」が 2 点に与えられ、慶應技術士会の出展はこれを受賞した（写真 3）。この賞は催しを企画・実施する側で決める賞ではなく、出展者や来場者として参加した人たちが、良い出展だったと投票してくれた結果によるもので、アゴラの主旨・方針や出展者の背景等には無関係に、200 を超える出展の中から純粋に参加者の目線で評価されることに意義がある。また、JST にも技術士を意識させたと感じられる。

3 サイエンスアゴラ参加の意義

サイエンスアゴラは国の機関、大学、高校、企業、各地の科学館、科学的活動をしているグループから個人まで、科学と名が付く活動を看板に掲げる様々な出展者があり、従って出展内容も専門家向けのものから児童相手のものまで様々である。来場者も専門家から学童・幼児まで幅広く、



写真3 「参加者特別賞」表彰状

6 000 人程度の来場があり、中でも子供を遊ばせに来る親子連れの比率が高い。

このような場を活用して技術士の名で多くの人に科学・技術の啓発をすることは、技術士の社会貢献の中でも貢献度が高い活動であり、技術士の知名度向上にも効果的である。

出展の形態は、会場の会議室などで行う講演形式、机・椅子を用意して実験・体験・工作などを行うブース形式、説明図・写真等を掲示して来場者と対話するポスター形式の3種類があるが、来場者に対して最も印象を与えることができ、多数の来場者と接することができるのはブース形式の、しかも工作を提供する出展である。

講演形式では講演時間にその部屋に入った人とししか接点がない。非常に高名な講演者の話題性がある講演でなければ、200 を超える出展の中から時間を割いてそれを聞こうとする人は限られ、とかく身内相手の講演となるし、話し手主体で対話性の薄い催しとなる。

ポスター形式は対話型ではあるが、対話しに来るのはその表示に関心がある人のみで、対話人数も限られる。

その点ブース形式は体験や工作という来場者参加型出展であり、素人目にも面白そうなことをやっている、関心を寄せてもらい易い。特に親子連れには効果が大きい(写真4)。

サイエンスアゴラに子供だけで来ることはほとんどないので、子供向けの工作であっても保護者を巻き込んでの対応となる。家族で来るような人たちは、子供を理系に育てたいと思う親が多く、



写真4 2016年の会場風景

親も工作の内容に関心を示す。実験・体験の出展より工作の出展が良いのは、その場限りではなく、自分の作品を持ち帰ることで、後日も技術士を意識してもらえることである。

4 課題

サイエンスアゴラは、出展料は必要ないが、オプションの会場備品には借用料がかかるし、工作の場合は材料・部品の購入費が必要になる。慶應技術士会では会員からの寄付で賄っており、毎年10 数万円程度の資金を投じている。来場者から材料費等を徴収することは認められるが、そこまではしたくない。

日本技術士会の科学技術振興支援委員会が、日本技術士会会員の社会貢献活動資金の支援を行っているが、対象は会員個人の活動のみで、団体の活動は対象になっていない。善処を期待したい。

5 サイエンスアゴラへのお誘い

2016年のサイエンスアゴラでは、環境部会の一部有志が加わった環境団体が、主催者JSTが授与するJST賞を受賞した。

サイエンスアゴラは技術士の社会貢献、知名度向上に打って付けの場である。技術士の皆さんが部会や所属企業、出身大学、有志グループなどの形で数多く参加することを望みたい。

関矢 英士 (せきや ひでし)
技術士(機械部門)

関矢技術士事務所 所長
e-mail: sekiya1941@kfa.biglobe.ne.jp

